

平成27年度 学校自己評価システムシート

(私立 春日部共栄高等学校)

目指す学校像	全人的人間の育成という精神を基礎として、知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性を育み、社会の発展に寄与する有能な人材を養成する。
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 1 社会貢献の意識を基礎とした高い志を育む自治活動の展開 2 生徒からの期待や信頼に高い水準で応え得る授業の実践 3 生徒の可能性を引き出し、生徒の夢を実現する進路指導の充実

達成度	A	目標がほぼ達成できた
	B	目標が概ね達成できた
	C	取り組みに変化の兆しがみられた
	D	取り組みが不十分であった

＜学校関係者評価委員会＞	
協議委員 (学校関係者)	7名
内部委員 (教職員)	8名

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標			年 度 評 価		最 終 実 施 日 平 成 2 8 年 3 月 2 8 日	
番号	評価項目	具体策と評価指標	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>①「至誠一貫」の精神のもと、規範意識を高めリーダーシップを発揮できる人材育成とその伝統づくり</p> <p>②年齢に応じた社会貢献やボランティア活動の実践</p> <p>③生徒どうしが互いに応援しあい、達成感を共有できる環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「日頃から心がけよう！他人への配慮十か条」の有効活用 →学校生活アンケート設問1・2で①の回答率50%以上 設問3・4で①②の回答率80%以上 ・委員会活動報告や方面別通学会報告等、生徒主体の情報発信 →学校生活アンケート設問5で①②の回答率80%以上 ・誰でも参加できるボランティア活動への年間を通じたはたらきかけ →学校生活アンケート設問6で①②の回答率80%以上 ・災害時、緊急時の対応と地域への社会貢献 →学校生活アンケート設問7で①②の回答率80%以上 ・「快音」等を利用した啓蒙活動の充実および意識啓発 →学校生活アンケート設問8で①②の回答率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・各項目とも、ここ数年同様の数値で推移している。特に規範意識(設問1・2)、自治活動関連(設問5・8)、防災関連(設問7)の項目は、①②の回答で70～90%と高い数値を示しており、校内での指導が定着してきている。 ・スマホ・携帯のルール(設問3)については、①②の回答で50%強であった。SNS関係も含めて社会問題になっている項目なので、問題が起こる前の予防を主眼とする対策を講じていきたい。 ・新たな項目として自転車の交通ルールについての設問を設けたところ、①②の回答が95%近くの数値を示したが、苦情や事故を考えると中身を精査する必要がある。 ・ボランティア活動(設問6)は、ここ数年60%前後での推移なので、その意義を考えさせることも含めもう一步踏み込んだ具体的な取り組みが必要と感じる。 	A B A	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホや携帯に関するルール、情報モラルについての意識高揚は不可欠である。保護者も参加できる情報セキュリティの講演の実施や個人情報の漏洩、写真掲載の危険性についての計画的な情報提供を考えていく。 ・自転車については、警察・JAFなど専門機関の講習会・講演会を活用しながら、計画的な啓発活動を通して事故防止を目指していく。 ・自治活動については、生徒の主体的な動きを誘導しながら生徒が話し合い共栄独自のルールを作成していったりする試みをしていく。そして、これらのルールが地域への社会貢献につながっていくようにしたい。 ・ボランティア活動については、年間計画を提示するだけでなく、LHRの時間等を利用してボランティアに関する知見を深め、もう一步踏み込んで参加、協力できるものを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの結果は、徐々にであったとしても上がっていることが大切であり、引き続き地道な取り組みを続けて欲しい。 ・子ども達の目をよく見ると、一人一人違うことが分かるので、気軽に声掛けをしながらそこに対する気配りをお願いしたい。 ・SNS等の問題に対しては、スマートフォンへ切り替えたときにしっかりと対応することが大切であり、学校と家庭の協力関係が不可欠と考える。 ・情報セキュリティの保護者向け講演会の実施等については、後援会活動の一貫として積極的に協力したい。
2	<p>①生徒の自己学習力育成を可能にする授業の実践</p> <p>②授業点検と改善の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の模範モデル(先輩に学ぶ)の定期的な提示 →学校生活アンケート設問9で①②の回答率80%以上 ・生徒個々の家庭学習計画の作成と実践 (日課表・スケジュールの利用) →学校生活アンケート設問10～12で①②の回答率70%以上 ・入試問題から逆算した各分野、単元での〈重要問題〉の提示 ・〈重要問題〉を意識したシラバスの作成 →学校生活アンケート設問13で①の回答率70%以上 ・授業アンケートの活用による授業点検と改善 →授業アンケート総合満足度で①②の回答率85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の「学習モデル」「試験範囲」の提示は高評価。また、今年度は各学年の進路説明会で「先輩の学習状況」の資料が生徒、保護者に提示された点に進展が見られた。 ・日課表、スケジュールの利用は一定の効果を上げているが、生徒が抱える個々の学習面の課題にうまく対処できていない点が家庭学習につなげられない原因と考えられる。 ・「重要問題」への意識は高い。上記「試験範囲」の高評価と合わせると、これは定期試験に向かう生徒の意識の高さを示していると考えられる。 ・実施方法検討の指摘を受けて今年度は全教科、全クラスで実施。総合満足度 84.7%だが、昨年同様保護者アンケートの結果とは隔たりがあった。 ・今年度はアクティブラーニング研修参加などの新しい動きもあった。 	A B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と連携して資料(情報)提示の年間計画を作成すべき。Lタイムを利用して有効な情報を効果的に提示できるよう組み立てていきたい。 ・「何にどのように取り組むべきか」という観点から計画的な自学自習を促すいくつかの具体的なパターンや指針を示し、コース、あるいは個別に対応していく必要がある。 ・定期試験への意識の高さを最大限に生かし、各教科と連動して重要問題の内容を充実させながら、その有効性をより発揮できる動きにつなげていきたい。 ・保護者アンケートの結果を真摯に受けとめ、課題解消に向けて研鑽・研究に継続的に取り組むべきである。〈入試問題の解析力〉と〈考える授業展開〉をテーマにした研鑽をどのように校内に定着させるか、各教科と検討を続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路説明会を志望大学のレベル別や受験型別に分科会形式で実施するのは大変有効と考える。 ・クローズアップされにくいのが、国語はすべての教科の基本になるものなので、是非しっかり力をつけていって欲しい。 ・自学自習の意識が少しずつでも高くなっていくのは良い傾向である。さらに、基本を押さえながらいろいろな取り組みをする中で、バランス良く展開して欲しい。 ・ビブリオバトルや思考の授業などこれまでのいろいろな取り組みを見れば、これからの大きな流れであるアクティブラーニングについても共栄独自のスタイルを確立していけると考える。
3	<p>①生徒の可能性を引き出し、生徒個々に応じた進路開拓と大学選択</p> <p>②進学講習や模試等の仕掛けによる学力増進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「進学通信」等を利用した啓蒙活動の充実および意識啓発 →学校生活アンケート設問14で①②の回答率80%以上 ・オープンキャンパス等を利用した主体的な進路研究の実践 →学校生活アンケート設問15で①②の回答率80%以上 ・生徒・保護者対象進路説明会の実施と保護者からの意見集約 →保護者アンケート設問8で①②の回答率80%以上 ・各種講習や試験の整理、充実と活用 →学校生活アンケート設問16、17で①②の回答率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・設問14・15とも昨年度からみて改善の様子が見えてくるが、「進学通信」の質や量も含め、より生徒に有効な形を追求する必要がある。 ・参加した保護者の23%があまり参考にならなかったとの回答であり、コメント欄の記載からも保護者のニーズに多様性が感じられた。 ・設問16の講習についても改善の様子が見えてくるが、講習の質の向上のため、更なる研鑽を教員に促していく。 ・設問17は、ほぼ横ばいの状況であった。模試に関してはベネッセのハイスクールオンライン、またLBノートをより有効に活用していく必要がある。 	A B	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の「進学通信」に加え、各学年にタイムリーな情報を「〇〇学年特別号」として発信していく。 ・国立、私立別や難易度別での大学群ごとに分科会形式で進路説明会を実施し、保護者のニーズに対応していく。 ・今年度変更した講習の形式は踏襲するが、アクティブラーニングを実践できるような講習内容も設定していく。 ・志望大学の難易度から模試での目標偏差値およびそれに必要な得点の設定、受験後の見直し、結果が出たところでその検証、そして次の模試につなげるというサイクルを徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災や緊急時の対応については、誰かがやっているだろうではなく、教職員全員が自分の事として捉えて主体的に活動することが大切である。 ・保護者アンケートの数値をみると、保護者が求めていることのハードルの高さを感じるが、適切な対応を期待したい。